12mm　間隔 4mm

記事種目
(論文、報告など、ゴシック、14 pt)

1 pt 又は 0.5mm の横線

論文

原稿は、1行 24 字(/段)×40 行、2段組み（A4 版）、片面打ちの完成原稿。
余白は、上下2左右 2cm、

和文表題
ゴシック（半角英数は CenturyGothic)、18 pt、センタリング。2 行以上になる場合は行間を空けない。
副題
ゴシック（半角英数は CenturyGothic)、16 pt、センタリング、ハイフンで挟む))

『専門日本語教育研究』原稿執筆要領
—投稿前にお読みください—

鈴木 花子[1]，佐藤 太郎[2]

著者名
ゴシック（半角英数は CenturyGothic)、12 pt、センタリング。連名の場合は「,」で並べ、著者番号を右肩に。単著の場合は「*」を右肩に。

要旨の見本です。要旨の見本です。要旨の見本です。

がって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。

2．調査対象

文の後は１行空けて、章題を書く。

これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。

これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。

これは見本です。これは見本です。（表１）

キャプション上、又は、表下に文章が来る場合１行空ける。

表１　表見本

	教材1	教材２
面白くて何度でも読み返したい。	3.96	2.62
読みやすい。	4.36	3.23
理解しやすい。	3.39	4.14
重い。	3.42	3.84
価格が高すぎる。	3.65	4.05
索引がどこに配置されているのか分かりにくい。	4.38	2.63
誤字脱字が多すぎる。	4.13	3.13

表の挿入：
通し番号と見出しをつけ（明朝（半角英数は Century）、10 pt）、表の上の位置に記す。表は紙面の四隅に配置し、文章を分断しないようにする。横幅は１段幅、又は、２段全幅の２種類とする。

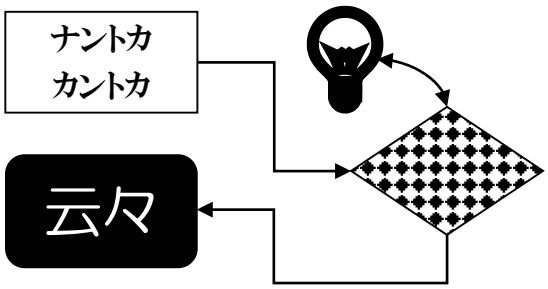

図１　図見本

キャプション下、又は、図上に文章が来る場合１行空ける。

図(写真含）の挿入：
通し番号と説明キャプション（明朝、10 pt）を、図の下の位置にセンタリングして記す。
図は紙面の四隅に配置し、文章を分断しないように。
横幅は１段幅か２段全幅の２種類。
印刷時の干渉縞を避けるために、網掛け、グレーは用いず、区別が必要な場合は線種やハッチングなどを用いる。
著者の提出した原稿をそのまま印刷するため、図・写真の質に注意する。写真はデジタルカメラで撮ったもの、またはスキャナーで取り込んだ画像を原稿に組み入れて提出する。それ以外の写真を使用したい場合は編集委員会に相談

3．結果と考察

「注」が必要な場合、本文中の関連箇所の右肩（フォント「上付き」を指定する）に「注1、注2、…」と記し、 論文末で解説する。脚注にはしない。

これは見本[注1]です。これは見本です。これは見本です。これ[注2]は見本です。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは見本です。

参考文献・引用文献は、本文中の関連箇所の右肩（フォント「上付き」を指定する）に番号を記し、末尾を参照させる。
一つの関連箇所に複数の参考文献番号がある場合は、たとえば「3-6)」とする。
２つの場合は「3,4)」のように書く

これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは見本です。これは見本です。これは見本です。[1)]

これは見本[1,2)]です。これは見本です。これは見本[1-3)]です。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これに

したがって､原稿の書式を設定してください｡これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは、見本です。これにしたがって、原稿の書式を設定してください。これは見本です。これは見本です。こ

注

注１　大部分の会員が知らないような専門用語は解説する。

注２　注の記述はできるだけ簡潔にする。

参考文献

1) 大阪太郎: 科学技術日本語の読解過程, 情報処理, Vol.1, No.1, pp.6-10 (1960)

2) 学際高男・谷岡花子: 会誌に投稿される方へ, 専門日本語教育研究, 第 6 号, p.85-86 (2004)

3) Feldman, J. and Gries, D.: Translator Writing System, Comm. ACM, Vol.11, No.2, pp.77-113(1968)

Subscription Information to Contributors: A Case of JTJE

SUZUKI, Hanako[1]　SATO, Taro[2]

[1]International Student Center, Tozai University

[2]Graduate School of Law and Politics, Namboku University

Abstract in English Abstract in English Abstract in English